

さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画

平成 27 年 12 月 28 日策定

多良間島

策定主体：多良間島さとうきび増産プロジェクト会議

さとうきび生産における基本的考え

【前計画（平成 18 年～平成 27 年）の達成状況の検証・評価】

(1) 数値目標の達成状況の検証

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 16 年産 (策定時)	265	—	17	282	4.8	—	1.2	4.6	12,781	—	202	12,984
平成 22 年産 (目標)	256	3	57	316	8.2	5.5	4.6	7.5	20,828	165	2,622	23,615
(実績)	251	6	40	297	8.8	1.0	4.4	8.0	22,080	62	1,750	23,893
(達成度 (%))	(98.1)	(200.0)	(70.2)	(94.0)	(107.3)	(18.9)	(95.1)	(107.3)	(106.0)	(37.8)	(66.8)	(101.2)
平成 27 年産 (目標)	228	3	126	357	8.4	6.0	4.8	7.1	19,163	180	6,031	25,374
平成 26 年産 (実績)	225	—	67	292	8.2	—	3.7	7.2	18,430	—	2,509	20,939
(達成度 (%))	(98.7)	—	(53.2)	(81.8)	(97.5)	—	(78.0)	(101.0)	(96.2)	—	(41.6)	(82.5)

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 17 年度 (策定時)		—	1	—
平成 22 年度 (目標)	28	—	1	1
(実績)	30	—	—	—
(達成度 (%))	(107.3)	—	—	—
平成 27 年度 (目標)	30	—	1	1
平成 26 年度 (実績)	7	—	—	—
(達成度 (%))	(23.3)	—	—	—

(2) 評価

① 前計画で挙げた課題

- ・機械化一貫体系確立に伴う作業の競合、受託組織の整備。兼業率の高さと高齢化。機械化による省力化。単収向上による生産コストの低減。
- ・高齢化、離農、負担過重感等のため共済加入意識が低い。補償方法への不満。
- ・畑地かんがい施設の未整備、ため池等水源の不足。
- ・含蜜糖の品質を保った収穫機械化体系の確立。
- ・堆肥投入の絶対量の不足。堆肥利用農家も少ない。
- ・株出推進のための土壌害虫の防除体制の確立。干ばつ時のバッタ類防除。発生予察による早急防除体制の確立。
- ・災害に強く、安定多収性品種の導入・普及。適応性品種の選定に係る取組み。健全無病苗に対する農家意識が不十分。
- ・夏植中心による土地利用効率の低さ。株出し体系促進の必要性。

② 課題に対する取組内容

- ・株出栽培面積の増加。
- ・堆肥投入に対する助成、緑肥種の配布。
- ・可動式誘殺灯によるアオドウガネの防除、ベイト剤によるハリガネムシの防除。
- ・収穫機械導入による機械収穫面積の増加。

③ 解決した課題

- ・土壌害虫防除により株出栽培が一定面積増加した。
- ・機械収穫面積の増によりある程度省力化が図れた。

④ 依然として残っている課題

- ・株出の管理作業不足による単収の低下。
- ・高齢化による担い手不足。
- ・堆肥投入や緑肥による地力向上への農家の意識が低い。

⑤ 新たに生じた課題

- ・株出栽培が一定面積増えたが、それにより管理作業が追いつかず、株出の単収が低下した。

【新たな目標】

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 26 年産 (現状)	225		67	292	8.2		3.7	7.2	18,430		2,509	20,939
平成 28 年産 (目標)	236	—	59	295	7.5	—	3.9	6.7	17,627	—	2,283	19,910
平成 29 年産 (目標)	245	—	50	295	8.0	—	4.0	7.3	19,600	—	2,000	21,600
平成 30 年産 (目標)	260	—	40	300	8.0	—	4.0	7.5	20,800	—	1,600	22,400
平成 31 年産 (目標)	270	—	35	305	8.0	—	4.0	7.5	21,600	—	1,400	23,000
平成 32 年産 (目標)	280	—	30	310	8.0	—	4.5	7.7	22,400	—	1,350	23,750
平成 37 年産 (目標)	290	—	20	310	8.3	—	4.5	8.1	24,070	—	900	24,970

(2) 担い手育成目標

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 27 年度 (現状)	11	—	—	—
平成 32 年度 (目標)	32	—	1	—
平成 37 年度 (目標)	35	—	1	—

(3) 目標達成に向けた取組方向

- ・株出の増加により、現状では管理作業が追いつかず単収減の要因となったため、夏植を中心とした栽培体系に戻す。
- ・夏植体系を推進すると同時に、管理作業受託組織を設立し、株出の単収向上を図る。

1. 目標達成に向けた取組計画

(1) 経営基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																	
<p>①農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫及び植付けの機械化体系の確立に伴い、作業の競合のため収穫後の整地・株出管理作業が遅れる傾向にあることから、受託組織の整備が必要。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定農家数： 11名 生産法人数： 0名 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 兼業率が高く高齢化も進んでおり、機械化による更なる省力化と単収向上による生産コストの低減を図る必要がある。 再認定を受けない認定農業者が多い。 今後管理作業の受託組織が必要となる。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定農業者と生産法人の育成を図る。 受託組織の育成強化を図る。 単収向上による生産コストの低減を図る。 <p>【目標】</p> <p><担い手育成目標></p> <table border="1" data-bbox="1144 555 1749 687"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>12</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>25</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>生産法人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>受託組織等</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定農業者の再認定を推進する。 生産法人を設立し、受託体制を整える。 		H28	H29	H30	H31	H32	認定農業者	12	18	20	25	32	生産法人	—	—	—	—	—	受託組織等	1	1	1	1	1										
	H28	H29	H30	H31	H32																															
認定農業者	12	18	20	25	32																															
生産法人	—	—	—	—	—																															
受託組織等	1	1	1	1	1																															
<p>②農業共済制度への加入促進</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明会開催等による共済加入の普及啓発。 <p>【現状】</p> <p><畑作物共済加入状況></p> <table border="1" data-bbox="488 1086 1032 1206"> <tbody> <tr> <td>共済加入戸数(率)</td> <td>176戸</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>引受面積(率)</td> <td>188ha</td> <td>64%</td> </tr> <tr> <td>支払金額</td> <td>5,493千円</td> <td>67.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者、小規模農家へ共済制度を理解させる必要がある。 	共済加入戸数(率)	176戸	69%	引受面積(率)	188ha	64%	支払金額	5,493千円	67.9%	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単戸当たりの共済金額の個人選択制の推進。 個人別危険段階共済掛け金率の普及の推進。 <p>【目標】</p> <p><畑作物共済加入目標></p> <table border="1" data-bbox="1144 1086 1809 1222"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28年</th> <th>29年</th> <th>30年</th> <th>31年</th> <th>32年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戸数(戸)</td> <td>210</td> <td>213</td> <td>215</td> <td>220</td> <td>225</td> </tr> <tr> <td>面積(ha)</td> <td>245</td> <td>248</td> <td>251</td> <td>257</td> <td>263</td> </tr> <tr> <td>面積加入率(%)</td> <td>84%</td> <td>85%</td> <td>86%</td> <td>88%</td> <td>90%</td> </tr> </tbody> </table> <p>有資格：26/27年期さとうきび生産実績に基づく有資格戸数・面積 戸数： 250 面積： 292ha</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も普及啓発を図り、加入率を増加させる。 	項目	28年	29年	30年	31年	32年	戸数(戸)	210	213	215	220	225	面積(ha)	245	248	251	257	263	面積加入率(%)	84%	85%	86%	88%	90%	
共済加入戸数(率)	176戸	69%																																		
引受面積(率)	188ha	64%																																		
支払金額	5,493千円	67.9%																																		
項目	28年	29年	30年	31年	32年																															
戸数(戸)	210	213	215	220	225																															
面積(ha)	245	248	251	257	263																															
面積加入率(%)	84%	85%	86%	88%	90%																															

(2) 生産基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																																																						
①作型の選択	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏植主体の作型から、株出面積の拡大で増産目標を立てたが株出の単収は減となった。 <p>【現状】</p> <p><収穫面積に占める各作型の割合></p> <table border="1" data-bbox="486 491 1055 863"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">面積割合 (%)</th> </tr> <tr> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>平成 18 年度</td><td>98.1</td><td>1.9</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>平成 19 年度</td><td>96.3</td><td>1.9</td><td>1.9</td></tr> <tr><td>平成 20 年度</td><td>96.5</td><td>0.0</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>平成 21 年度</td><td>95.8</td><td>0.0</td><td>4.2</td></tr> <tr><td>平成 22 年度</td><td>84.5</td><td>2.0</td><td>13.5</td></tr> <tr><td>平成 23 年度</td><td>86.5</td><td>3.4</td><td>10.1</td></tr> <tr><td>平成 24 年度</td><td>87.2</td><td>0.0</td><td>12.8</td></tr> <tr><td>平成 25 年度</td><td>77.3</td><td>0.0</td><td>22.7</td></tr> <tr><td>平成 26 年度</td><td>77.1</td><td>0.0</td><td>22.9</td></tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状では、株出面積を増やすと管理作業が追いつかず、単収減の要因となる。 		面積割合 (%)			夏植	春植	株出	平成 18 年度	98.1	1.9	0.0	平成 19 年度	96.3	1.9	1.9	平成 20 年度	96.5	0.0	3.5	平成 21 年度	95.8	0.0	4.2	平成 22 年度	84.5	2.0	13.5	平成 23 年度	86.5	3.4	10.1	平成 24 年度	87.2	0.0	12.8	平成 25 年度	77.3	0.0	22.7	平成 26 年度	77.1	0.0	22.9	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏植を中心とした栽培体系の推進。 <p>【目標】</p> <p><収穫面積に占める各作型の割合目標></p> <table border="1" data-bbox="1144 491 1713 735"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">面積割合 (%)</th> </tr> <tr> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>平成 28 年度</td><td>79.7</td><td>—</td><td>20.3</td></tr> <tr><td>平成 29 年度</td><td>83.1</td><td>—</td><td>16.9</td></tr> <tr><td>平成 30 年度</td><td>86.7</td><td>—</td><td>13.3</td></tr> <tr><td>平成 31 年度</td><td>88.5</td><td>—</td><td>11.5</td></tr> <tr><td>平成 32 年度</td><td>90.3</td><td>—</td><td>9.7</td></tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 株出を推進したが単収減となったため、夏植中心の栽培体系に戻す。平成 32 年度の夏植の目標を 9 割とし、増収に繋げる。 同時に株出栽培の管理作業も強化し、単収向上を図る。 		面積割合 (%)			夏植	春植	株出	平成 28 年度	79.7	—	20.3	平成 29 年度	83.1	—	16.9	平成 30 年度	86.7	—	13.3	平成 31 年度	88.5	—	11.5	平成 32 年度	90.3	—	9.7	
	面積割合 (%)																																																																								
	夏植	春植	株出																																																																						
平成 18 年度	98.1	1.9	0.0																																																																						
平成 19 年度	96.3	1.9	1.9																																																																						
平成 20 年度	96.5	0.0	3.5																																																																						
平成 21 年度	95.8	0.0	4.2																																																																						
平成 22 年度	84.5	2.0	13.5																																																																						
平成 23 年度	86.5	3.4	10.1																																																																						
平成 24 年度	87.2	0.0	12.8																																																																						
平成 25 年度	77.3	0.0	22.7																																																																						
平成 26 年度	77.1	0.0	22.9																																																																						
	面積割合 (%)																																																																								
	夏植	春植	株出																																																																						
平成 28 年度	79.7	—	20.3																																																																						
平成 29 年度	83.1	—	16.9																																																																						
平成 30 年度	86.7	—	13.3																																																																						
平成 31 年度	88.5	—	11.5																																																																						
平成 32 年度	90.3	—	9.7																																																																						
②気象災害に強い生産基盤の整備	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水源の整備、かんがい施設の整備、防風・防潮林の整備に取り組み、整備率向上を図った。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水源が少ないことから干ばつの被害を受けやすいため、ため池整備による水源確保を図る。 防風・防潮林の整備を進めるため村の整備計画を策定する。また、村苗畑より農家への苗木の無料配布を行う。 																																																																							

【現状】

<農業基盤整備の状況>

- ・土地基盤整備：87.4%
- ・畑地灌漑整備：10.5%
- ・水源整備：34.8%
- ・農地防風林整備：84.7%
- ・海岸防災林整備：中筋地区整備
- ・灌水タンク整備：10基

※H26年度実績見込み値

【課題】

- ・土地基盤整備は進んでいるが、畑地灌漑整備はほとんど未整備であり、ため池等の水源も少ない状況にある。

【目標】

<農業基盤整備率目標（H33年度）>

- ・水源整備率：38.1%
- ・畑地灌漑施設整備率：10.5%
- ・ほ場整備率：97.0%
- ・防風林整備率：93.4%（1地区）

【計画】

- ・畑地灌漑整備事業を計画的に実施し、整備率を高める。
- ・破損したため池の修繕を行い、水源を確保する。
- ・干ばつ時には灌水タンクを稼働させる。

③機械化一貫体系の確立

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・機械収穫率が約30%となっている。集中脱葉施設も整備されており、含蜜糖の品質維持を図りながら地域の実態に即した小型ハーベスタ等の収穫機械化体系の確立が必要。
- ・小型ハーベスタ2台導入し、収穫率は54%

【現状】

<さとうきび機械稼働状況>

平成26年	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	5	54%
株出管理機	3	—
全茎プランタ	6	—

【取組の方向】

- ・農業機械の効率的な利用を推進するため運営委員会等との連携を強化する。

【目標】

<さとうきび機械稼働目標>

平成28年	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	7	—
株出管理機	3	—
全茎プランタ	7	—

平成29年	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	7	—
株出管理機	3	—
全茎プランタ	7	—

平成30年	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	7	—
株出管理機	3	—
全茎プランタ	8	—

平成 31 年	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	8	—
株出管理機	3	—
全茎プランタ	9	—

平成 32 年	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	8	—
株出管理機	5	—
全茎プランタ	15	—

【課題】

- ・ 植え付け、株出管理、収穫機械等機械化一貫体系の受託推進を行う。

【計画】

- ・ 生産法人等受託組織の設立を推進する。

④地力の増進

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・ 堆肥・土壌改良材の投入は随時行なっている。平成 8 年に堆肥センターを整備し、集脱施設からの葉柄やバガスと畜産廃棄物を混合した堆肥を生産している。
- ・ 緑肥は、収穫後の耕起、緑肥のすき込みが十分に行えず少ない。

【現状】

- ・ 堆肥散布面積：2, 185a

【課題】

- ・ 堆肥の投入の絶対量が少ない。堆肥を利用する農家も少ない。

【取組の方向】

- ・ 堆肥の利用を 100ha 以上にするよう農家への普及・啓発を図る。また、10a 当たりの投入量も土壌分析に応じて決めていく。

【目標】

- ・ 平成 32 年：2, 300a

【計画】

- ・ 堆肥センターの機能強化による堆肥の増産。
- ・ 深土破碎と天地替えを各年毎に行う。

(3) 技術対策

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																				
<p>①栽培技術の普及等</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏植栽培が中心で土地利用効率が悪く株出を促進した結果、前回策定時より株出の面積が増加した。 <p>【現状】</p> <p><植付け時期・適期肥培管理の達成率></p> <table border="1" data-bbox="450 671 913 794"> <thead> <tr> <th>栽培型</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 株出面積を拡大したが管理作業が追いつかず単収減となった。 	栽培型	達成率	夏植	30%	春植	90%	株出	20%	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 適期植付・株出管理について農家への指導強化を図る。 <p>【目標】</p> <p><平成32年目標></p> <table border="1" data-bbox="1225 671 1641 794"> <thead> <tr> <th>栽培型</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>90%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏植中心の体系を推進しつつ、株出管理作業の指導強化を図る。 	栽培型	達成率	夏植	90%	春植	—	株出	90%																					
栽培型	達成率																																						
夏植	30%																																						
春植	90%																																						
株出	20%																																						
栽培型	達成率																																						
夏植	90%																																						
春植	—																																						
株出	90%																																						
<p>②優良品種の選択・普及</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年によって、作付け品種に大きな偏りがあった。 <p>【現状】</p> <p><収穫面積に占める主要品種の構成割合></p> <p style="text-align: right;">単位：%</p> <table border="1" data-bbox="439 1251 1160 1377"> <thead> <tr> <th></th> <th>F161</th> <th>Ni9</th> <th>NiF8</th> <th>Ni15</th> <th>宮古1号</th> <th>Ni21</th> <th>Ni22</th> <th>Ni27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18年産</td> <td>0.4</td> <td>0.4</td> <td>0.7</td> <td>95.6</td> <td>3.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H22年産</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>76.4</td> <td>19.5</td> <td></td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H26年産</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>40.4</td> <td>9.9</td> <td>3.4</td> <td>12.3</td> <td>33.9</td> </tr> </tbody> </table>		F161	Ni9	NiF8	Ni15	宮古1号	Ni21	Ni22	Ni27	H18年産	0.4	0.4	0.7	95.6	3.0				H22年産				76.4	19.5		4.0		H26年産				40.4	9.9	3.4	12.3	33.9	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 台風、干ばつ等に抵抗性のある品種の導入による品種構成の適正化を図る。 健全無病苗の活用による生産向上を推進する。 実証展示ほを活用し、新品種の中から地域適正品種を選定する。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 品種はNi27号の比率が高いことから新品種の導入を検討する。 複数の品種(3品種程度)を作付けし、1品種に偏らせない。 	
	F161	Ni9	NiF8	Ni15	宮古1号	Ni21	Ni22	Ni27																															
H18年産	0.4	0.4	0.7	95.6	3.0																																		
H22年産				76.4	19.5		4.0																																
H26年産				40.4	9.9	3.4	12.3	33.9																															

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強く、安定多収性品種の導入・普及。 ・適応性品種の選定に係る取組。 ・健全無病苗に対する農家意識が十分でない。 	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原苗ほ等の設置を引き続き行う。 	
<p>③病害虫対策</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハリガネムシやアオドウガネ等の土壌害虫により立枯れや不萌芽が多く、株出推進に当たり防除体系の確立が必要。 ・バッタ類は干ばつ時に発生が多く注意が必要。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交信かく乱材によるイネヨトウの防除（400ha）。 ・誘殺灯によるアオドウガネ成虫の誘殺（4月～7月）。 ・ベイト剤によるハリガネムシ防除の実施。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイチュウ類による芯枯れの発生時、農薬を併用した防除を行う必要がある。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生予察の充実強化による早期防除対策の実施。 ・誘殺灯の適正管理。 ・早期ロータリ耕転を行うためのオペレータや機械の確保 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交信かく乱材、誘殺灯、ベイト剤等の利用を継続させる。 <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家への適正農薬使用による病害虫防除技術の普及指導の徹底を図る。 ・種苗導入時における害虫侵入防止について、農家の意識向上を図る。 	

2. さとうきび増産に向けた取組の推進体制について

<p>①さとうきび増産に向けた取組推進体制</p>																						
<p>②関係者の役割分担</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">参画機関</th> <th rowspan="2">担うべき役割</th> <th colspan="3">具体的取組方策</th> </tr> <tr> <th>経営基盤の強化</th> <th>生産基盤の強化</th> <th>技術対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>多良間村</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト会議の事務全般等 国・県事業導入及び予算等の事項 国・県との調整等 さとうきび増産体制に係る事項 その他増産に関する事項全般 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 受託組織の推進等 共済加入の推進 認定農業者の認定 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 事業導入計画 水源の確保 農業機械の導入 防風防潮林の整備 堆肥の供給 緑肥栽培の励行 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 展示補の設置 優良種苗の増殖普及 病虫害防除対策 </td> </tr> <tr> <td>農業委員会</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 農地流動化等に関する事項 農家への啓発 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 農地の流動化促進 耕作放棄地の点検等 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				参画機関	担うべき役割	具体的取組方策			経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策	多良間村	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト会議の事務全般等 国・県事業導入及び予算等の事項 国・県との調整等 さとうきび増産体制に係る事項 その他増産に関する事項全般 	<ul style="list-style-type: none"> 受託組織の推進等 共済加入の推進 認定農業者の認定 	<ul style="list-style-type: none"> 事業導入計画 水源の確保 農業機械の導入 防風防潮林の整備 堆肥の供給 緑肥栽培の励行 	<ul style="list-style-type: none"> 展示補の設置 優良種苗の増殖普及 病虫害防除対策 	農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> 農地流動化等に関する事項 農家への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 農地の流動化促進 耕作放棄地の点検等 	<ul style="list-style-type: none"> 	
参画機関	担うべき役割	具体的取組方策																				
		経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策																		
多良間村	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト会議の事務全般等 国・県事業導入及び予算等の事項 国・県との調整等 さとうきび増産体制に係る事項 その他増産に関する事項全般 	<ul style="list-style-type: none"> 受託組織の推進等 共済加入の推進 認定農業者の認定 	<ul style="list-style-type: none"> 事業導入計画 水源の確保 農業機械の導入 防風防潮林の整備 堆肥の供給 緑肥栽培の励行 	<ul style="list-style-type: none"> 展示補の設置 優良種苗の増殖普及 病虫害防除対策 																		
農業委員会	<ul style="list-style-type: none"> 農地流動化等に関する事項 農家への啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 農地の流動化促進 耕作放棄地の点検等 	<ul style="list-style-type: none"> 																			

	J A支店	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上の推進に関する事項 事業導入に関する事項 農家への普及啓発活動等 農家への技術指導に関する事項 生産組織、受託組織に関する事項 生産資材に関する事項 	<ul style="list-style-type: none"> 生産組織の推進 受託組織の推進 共済加入の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 機械等の事業導入 生産資材等の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 肥培管理ごよみ作成 展示ほ調査協力 病害虫防除の推進 農家パトロール 側枝苗導入の検討
	宮古製糖	<ul style="list-style-type: none"> 実証展示ほの等への協力 品種導入の技術に関する事項 堆肥・バガスの供給等 	<ul style="list-style-type: none"> 受託組織等への協力 共済加入の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 車両、機械等の提供 バガスの供給等 	<ul style="list-style-type: none"> 実証展示ほの設置 新品種の普及拡大 農家懇談会の開催
	生産農家	<ul style="list-style-type: none"> 技術講習会等への参加 生産技術向上への協力 実証展示ほへの協力 	<ul style="list-style-type: none"> 生産組織への加入 共済への加入 	<ul style="list-style-type: none"> 増産体制への協力 	<ul style="list-style-type: none"> 実証展示ほ設置等への協力 技術検討会呼びかけ 病害虫防除対策（収穫後の迅速な耕転等）
	農業改良普及課	<ul style="list-style-type: none"> 生産技術に関する事項 事業導入に関する事項 生産性に関する事項全般 県行政との調整に関する事項 その他生産組織に関する事項等 	<ul style="list-style-type: none"> 受託組織の指導 農家経営等の調査 共済加入促進指導 	<ul style="list-style-type: none"> 事業導入への協力 事業効果の検証指導 	<ul style="list-style-type: none"> 展示ほの設置、指導 品種構成の指導 技術講習・実演会 土壌調査 栽培指針の策定 その他
	沖縄県農業共済組合 (宮古支所)	<ul style="list-style-type: none"> 共済加入率の促進に係る事項 病害虫被害耕地への対応PR 	<ul style="list-style-type: none"> 加入促進説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 	
	農業研究センター	<ul style="list-style-type: none"> 実証展示ほ等への協力 生産技術に関する事項 技術講習会等に関する事項 			<ul style="list-style-type: none"> 展示ほの指導 技術講習・実演会
③毎年度の検証方法・体制	各工場の生産実績を基に各関係機関と検証を行う。				

(参考情報)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

多良間島は、那覇市から南西に約 350Km 離れ、宮古島と石垣島のほぼ中間に位置する直径約 5 Km、面積 1,973ha で平坦円形の島で風水思想に基づいて集落が形成されている。土壌は、琉球石灰岩土壌(島尻マーヅ)で土層は浅く保水力に乏しい。気候は、亜熱帯性で一年を通して暖かく年平均気温 24℃で、年間の降水量は約 2,000mm と降水には恵まれているが、季節によって降水量はむらが生じている。産業構造は、さとうきび、葉たばこ、肉用牛が主要な営農体系となっている。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状	【近年の作物別作付面積の動向、さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移】								
	(1) 作物別作付面積の動向								
	(単位 : ha)								
	耕地面積	作付面積	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	果樹	飼料作物	その他
H17	954	—	287	—	—	—	—	—	—
H18	953	—	270	—	—	—	—	—	—
H19	962	—	270	—	—	3.5	—	—	—
H20	964	—	285	—	—	6.2	—	—	—
H21	964	—	284	—	—	6.5	—	—	—
H22	984	—	297	—	—	5.8	—	—	—
H23	983	—	296	—	—	6.7	—	—	—
H24	983	—	298	—	—	4.7	—	—	—
H25	983	—	309	—	—	3.5	—	—	—
H26	983	—	292	—	—	3.1	—	—	—

※H19 年以後、品目によっては市町村統計が公表されていないため数値が把握されていない。

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収 穫 面 積 (ha)				単 収 (t/ha)				生 産 量 (t)				糖 度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	280	2	5	287	84.1	29.5	50.0	83.2	23,558	59	250	23,867	14.50
H18	265	5	—	270	85.3	48.0	—	84.6	22,592	240	—	22,832	15.50
H19	260	5	5	270	103.4	33.3	84.6	101.8	26,896	167	423	27,486	14.20
H20	275	—	10	285	85.3	—	50.0	84.1	23,463	—	500	23,963	15.60
H21	272	—	12	284	96.4	—	45.0	94.2	26,215	—	540	26,755	14.90
H22	251	6	40	297	88.0	10.4	43.8	80.4	22,080	62	1,750	23,893	13.20
H23	256	10	30	296	52.4	2.1	44.6	49.9	13,420	21	1,338	14,779	13.70
H24	260	—	38	298	73.2	—	64.7	72.1	19,027	—	2,457	21,484	14.90
H25	239	—	70	309	80.3	—	29.2	68.7	19,180	—	2,041	21,221	13.70
H26	225	—	67	292	81.9	—	37.4	71.7	18,430	—	2,509	20,939	14.80

【年齢階層別農家戸数】

(単位：人)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
H19	11	22	61	55	91	240
H20	6	20	59	55	86	226
H21	2	12	26	33	50	123
H22	1	3	14	21	33	72
H23	1	5	18	29	61	114
H24	3	19	40	79	125	266
H25	2	16	35	75	127	255
H26	1	12	28	63	124	228

【経営（収穫）規模別農家戸数】

(単位：戸)

	100a 未満	100～300a 未満	300a～500a 未満	500a 以上	合計
H17	149	107	9	1	266
H18	132	125	5	1	263
H19	130	114	5	—	249
H20	162	90	9	—	261
H21	133	121	6	1	261
H22	149	102	8	2	261
H23	211	36	—	—	247
H24	156	110	3	—	269
H25	119	126	8	2	255
H26	135	107	21	2	265

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	95.47	99	14.08	8.54
H18	91.33	99	14.79	9.65
H19	109.94	120	13.21	10.34
H20	95.85	106	14.80	10.80
H21	107.02	119	13.58	11.29
H22	95.57	106	12.40	10.76
H23	59.12	73	13.17	12.50
H24	85.94	99	14.28	11.75
H25	84.89	100	13.15	11.76
H26	83.76	98	13.76	12.44